番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-1	現代文B	3	S・A・P	3	必修

何を学ぶか

・2年次に履修した「現代文B」を踏まえ、近代以降の評論、小説、随筆、詩歌について、より多くの作品を一層深く学習する。
・読解を中心としながら、作品の鑑賞や表現力を高めることができるような取り組みも行う。

学習目標

・表現、理解の基礎となる語彙、文法、漢字の読み書き等について、正しく理解・修得する。
・読解力や鑑賞力を高め、論理的思考力と発想力、豊かな感受性を養う。
・作品理解や読書を通して、自分と自分をとりまく環境を見つめ、自らの意見を持てるようにする。
・問題演習に積極的に取り組む。

学習方法

・予習では、① 本文を音読する。
② 漢字、語句の意味を辞書で調べておく。
③ 100字程度で内容の要約をする。
④ 筆者の見解や作品の内容について、自分の意見や感想をノートに記入しておく。
・授業では、黒板の板書だけでなく、説明されている事柄をノートにメモし、復習に役立てる。
・指示された課題・宿題等はきちんと家庭学習で済ませておく。
・テスト前には、大意以外にも、指示語、接続詞、抽象的な箇所の説明、理由や心情の説明などの予想問題を作ってみる。

評価方法

・定期考査は1、2学期の中間・期末と学年末考査の計5回実施する。また授業時には週ごとに小テストなどを実施する。
・評価は定期考査を8割、小テストや提出物、授業への取り組みなどを平常点として2割の割合で行う。

授業予定

「▼」は定期考査の時期を示す

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
現代文B	小説					■	■				■	■							■	■	■	■	■	■													
	評論			■	■			■	■																■	■				■	■						
	詩歌																	■																			
	表現		■							■						■	■										■										

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-2	古典B	3	S・A文・P	3	必修

何を学ぶか

① 古文や漢文に用いられている語句の意味や用法、文の構造
② 文章や作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる方法
③ 主要な古文や漢文にみられる、人間や社会、自然などに対する各時代の思想や感情
④ 古典作品の表現上の特色や優れた表現
⑤ 日本文化の特質や日本文化と中国文化との関係

学習目標

・2年生で身につけた読解力をより高めるとともに、古典的知識も深め、ものの見方や感じ方・考え方を広くする。
・基礎的な知識を確認しながら、さまざまな内容や文体の古文や漢文に慣れ親しむことを通して、人生を豊かにする態度を養う。
・問題演習にも積極的に取り組む。

学習方法

・予習として、本文をノートに写し、単語の意味や漢字の読み方などの基本的事項を調べ、音読しておく。自分なりに現代語訳しておくと、授業中の学習がより効果的に行える。
・授業中は訳を単に写したり修正したりするだけではなく、文法等の重要事項も確認し、語彙や文法事項の知識などをふまえて、そのような訳になる理由を考える。
・学習した知識を定着させるために、復習は必要である。国語便覧を活用し、作者の思想や作品の文学史的位置づけ、作品の成立した時代背景等を調べたり、文法テキストを基に文法の理解を深めることも大切である。

評価方法

・定期考査は1、2学期の中間・期末と学年末考査の計5回実施する。また授業時には週ごとに小テストなどを実施する。
・評価は定期考査を8割、小テストや提出物、授業への取り組みなどを平常点として2割の割合で行う。

授業予定

「▼」は定期考査の時期を示す

分野	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
							▼				▼											▼					▼				▼						
古文	説話		■	■																																	
	物語						■	■	■													■	■	■													
	俳諧											■																									
	日記															■	■	■	■																		
	評論																										■			■	■						
	文法		■	■								■				■	■	■	■			■	■	■			■			■	■						
漢文	逸話				■	■																															
	史伝																			■	■																
	漢詩									■	■																										
	小説・文章																							■	■												
	句法・重要語				■	■				■	■									■	■				■												

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-3	古典B	3	A理	2	必修

何を学ぶか

① 古文や漢文に用いられている語句の意味や用法、文の構造
② 文章や作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる方法
③ 主要な古文や漢文にみられる、人間や社会、自然などに対する各時代の思想や感情
④ 古典作品の表現上の特色や優れた表現
⑤ 日本文化の特質や日本文化と中国文化との関係

学習目標

・2年生で身につけた読解力をより高めるとともに、古典的知識も深め、ものの見方や感じ方・考え方を広くする。
・基礎的な知識を確認しながら、さまざまな内容や文体の古文や漢文に慣れ親しむことを通して、人生を豊かにする態度を養う。
・問題演習にも積極的に取り組む。

学習方法

・予習として、本文をノートに写し、単語の意味や漢字の読み方などの基本的事項を調べ、音読しておく。自分なりに現代語訳しておくと、授業中の学習がより効果的に行える。
・授業中は訳を単に写したり修正したりするだけではなく、文法等の重要事項も確認し、語彙や文法事項の知識などをふまえて、そのような訳になる理由を考える。
・学習した知識を定着させるために、復習は必要である。国語便覧を活用し、作者の思想や作品の文学史的位置づけ、作品の成立した時代背景等を調べたり、文法テキストを基に文法の理解を深めることも大切である。

評価方法

・定期考査は1、2学期の中間・期末と学年末考査の計5回実施する。また授業時には週ごとに小テストなどを実施する。
・評価は定期考査を8割、小テストや提出物、授業への取り組みなどを平常点として2割の割合で行う。

授業予定

「▼」は定期考査の時期を示す

分野	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
古文	説話		■	■																																	
	物語						■	■	■													■	■	■													
	俳諧											■																									
	日記															■	■	■	■																		
	評論																										■			■	■						
	文法		■	■								■				■	■	■	■			■	■	■			■			■	■						
漢文	逸話				■	■																															
	史伝																			■	■																
	漢詩									■	■																										
	小説・文章																							■	■												
	句法・重要語				■	■				■	■									■	■				■												

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-4	国語表現	3	S文	2	選択

何を学ぶか

・自分が考えたことや感じたことを、他人にわかるように、文章にまとめたり、話をしたりする方法を学ぶ。

学習目標

・正しい文章の書き方を身につけ、様々な用途や内容に対応した文章や、1000字程度の小論文を書けるようになる。
・また、好印象を与える話し方、効果的なコミュニケーションの方法を身につける。

学習方法

・日頃から、正しく読みやすい文字を書くように心がけておく。漢字については、継続的に学習を積み重ねておかねばならない。
・文章の書き方や話し方については授業で学習していくが、内容を豊かに持つためには、日頃から社会に目を向け、新聞や本を読み、様々な物事について自分なりに考えておくことが必要である。
・授業では、積極的に書き、話すことが大切である。繰り返し練習することによってのみ表現力は上達する。

評価方法

・定期考査点(それに準ずる小テストを含む)と平常点(提出物、小テスト、授業参加等)を、5:5の割合に換算して評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の時期を示す

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
国語表現	文の書き方		■	■	■	■	■																														
	作文		■	■	■	■	■	■								■	■	■												■	■						
	小論文								■	■	■																										
	レポート																				■	■	■														
	話し方											■							■	■																	
	敬語																							■													
	手紙文																								■												
	鑑賞					■														■						■											
	創作				■																						■										

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-5	国語特講	3	S文	2	選択

何を学ぶか

・1、2年で学んできた国語力を「総合的な国語力」に高めるための演習を中心とした学習活動を行う。大きく、現代文と古典の二分野からなるが、どちらの分野についても、受験を視野に入れた学習から、読解力・語彙力の強化といった基礎的な学習まで幅広く行う。
・また、課題に応じて必要な情報を収集・分析・整理し、的確な日本語で表現して発表をするなどの表現分野の学習活動も随時行う。

学習目標

・表現、理解の基礎となる語彙、文法、漢字の読み書き等について、正しく理解・修得する。
・読解力や鑑賞力を高め、論理的思考力と発想力、豊かな感受性を養う。
・文章読解を通して、自分と自分をとりまく環境を見つめ、自らの意見を持てるようにする。
・古典の読解力をより高めるとともに古典的知識も深め、ものの見方や感じ方、考え方を広くする。また、基本的な知識を確認しながら、さまざまな内容や文体の古文や漢文の読解を通して、人生を豊かにする態度を養う。

学習方法

■現代文・古文・漢文のいずれも授業内で示す課題に、受身ではなく、自ら真摯に取り組むこと。
① 現代文：授業ではスピーディーに文章読解につなげられるよう、語彙力をつけるべく常に辞書等で確認できるように準備して臨むこと。
② 古典(古文＋漢文)：授業では、文のポイントを理解し、自力で現代語訳ができるように、単語や古典文法・漢文句法などを確実に身につける。

評価方法

・定期考査点(それに準ずる小テストを含む)と平常点(提出物、小テスト、授業参加等)を、5：5の割合に換算して評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の時期を示す

分野	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
							▼				▼											▼						▼			▼						
現代文	演習		■	■				■			■	■							■	■		■	■	■			■										
	表現						■									■	■	■							■	■				■	■						
古文	演習				■	■				■	■							■		■	■				■	■				■							
	古典文法				■	■				■						■	■	■		■					■	■				■							
漢文	演習								■									■																			
	句法							■	■							■	■	■																			

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-6	国語特講	3	A文	3	選択

何を学ぶか

・1、2年で学んできた国語力を「総合的な国語力」に高めるための演習を中心とした学習活動を行う。大きく、現代文と古典の二分野からなるが、どちらの分野についても、受験を視野に入れた学習から、読解力・語彙力の強化といった基礎的な学習まで幅広く行う。
・また、課題に応じて必要な情報を収集・分析・整理し、的確な日本語で表現して発表をするなどの表現分野の学習活動も随時行う。

学習目標

・表現、理解の基礎となる語彙、文法、漢字の読み書き等について、正しく理解・修得する。
・読解力や鑑賞力を高め、論理的思考力と発想力、豊かな感受性を養う。
・文章読解を通して、自分と自分をとりまく環境を見つめ、自らの意見を持てるようにする。
・古典の読解力をより高めるとともに古典的知識も深め、ものの見方や感じ方、考え方を広くする。また、基本的な知識を確認しながら、さまざまな内容や文体の古文や漢文の読解を通して、人生を豊かにする態度を養う。

学習方法

■現代文・古文・漢文のいずれも授業内で示す課題に、受身ではなく、自ら真摯に取り組むこと。
① 現代文：授業ではスピーディーに文章読解につなげられるよう、語彙力をつけるべく常に辞書等で確認できるように準備して臨むこと。
② 古典(古文＋漢文)：授業では、文のポイントを理解し、自力で現代語訳ができるように、単語や古典文法・漢文句法などを確実に身につける。

評価方法

・定期考査点(それに準ずる小テストを含む)と平常点（提出物、小テスト、授業参加等）を、5：5の割合に換算して評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の時期を示す

分野	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
							▼				▼											▼						▼			▼						
現代文	演習		■	■				■			■	■							■	■		■	■	■			■										
	表現						■									■	■	■							■	■				■	■						
古文	演習				■	■				■	■							■		■	■				■	■				■							
	古典文法				■	■				■						■	■	■		■					■	■				■							
漢文	演習								■									■																			
	句法							■	■							■	■	■																			

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-7	世界史A	3	A文	2	選択

何を学ぶか

・世界の歴史のうち、16世紀以降のヨーロッパ世界を中心に世界が一体化していく近・現代を中心に学んでいきます。

学習目標

・生徒の世界史への興味・関心を高め、自ら取り組む態度を養います。
・世界がどのような歴史を遂げ、現在の世界を形成しているか理解します。
・世界を学ぶことで、現代の世界が当面する課題について考察できる力を養います。

学習方法

・教科書、資料集に沿って授業を進めていきます。
・小テストなどを実施し、学習内容の定着を図ります。
・歴史上の人物や具体的なエピソードで、生徒の興味を引き出す工夫をします。
・日本とのつながりを踏まえながら、学習を進めます。

評価方法

評価は、定期考査を7割～8割程度、小テスト、課題、授業態度（興味・関心、意欲、知識、授業姿勢）を2割～3割程度の割合で総合的に行う。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
世界史A	世界の一体化		■	■	■																													
	産業革命					■	■																											
	市民革命							■	■	■																								
	帝国主義の時代										■	■				■																		
	第一次世界大戦																■	■	■	■														
	戦間期の世界																				■	■	■											
	第二次世界大戦																							■	■	■								
	東西冷戦																										■			■				
	地域紛争と国際社会																														■			

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-8	日本史A	3	A文	2	選択

何を学ぶか

（1）近代史・近現代史を中心に日本の歴史を学ぶ。
（2）日本文化の特色や伝統への理解を深める。
（3）複雑化した国際社会の中で生きる日本の方向性について考察する。

学習目標

○ 近代・近現代の日本史の展開を世界史的な視野に立って考察し、自国の歴史や文化・伝統への認識と誇りを深めるとともに、歴史的思考力を養い、国民としての自覚を持って複雑化した国際社会の中で生きる資質を培う。

学習方法

（1）世界史や地理、政治経済などの地歴公民科の小教科との連携を図る。
（2）国際関係を重視し、広い視野から多面的・多角的に歴史的事象を総合的に考察する。
（3）資料集を活用したり、様々な情報（新聞やTなどで）を収集する。
（4）ノートに授業内容をまとめ、配布されるプリント類を添付して、日本史ノートを作成する。
（5）文化史に関するプリントを、教科書・資料集を活用して完成させる。

評価方法

○ 評価は、定期考査を7割～8割程度、小テスト、課題、授業態度（興味・関心、意欲、知識、授業姿勢）を2割～3割程度の割合で総合的に行う。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
日本史A	原始・古代	／	■	■									／	／	／													／	／			／	／	／
	中世	／		■	■	■							／	／	／													／	／			／	／	／
	近世	／					■	■	■	■	■	■	／	／	／													／	／			／	／	／
	近代	／											／	／	／	■	■	■	■	■	■	■						／	／			／	／	／
	近現代	／											／	／	／								■	■	■	■	■	／	／	■	■	／	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-9	日本史B	3	S文	4	必修

何を学ぶか

（1）原始古代から現代までの日本の歴史を学ぶ。
（2）日本文化の特色や伝統への理解を深める。
（3）複雑化した国際社会の中で生きる日本の方向性について考察する。

学習目標

○ 原始古代からの日本史展開を世界史的な視野に立って考察し、自国の歴史や文化・伝統への認識と誇りを深めるとともに、歴史的思考力を養い、国民としての自覚を持って複雑化した国際社会の中で生きる資質を培う。

学習方法

（1）世界史や地理、政治経済などの地歴公民科の小教科との連携を図る。
（2）国際関係を重視し、広い視野から多面的・多角的に歴史的事象を総合的に考察する。
（3）資料集を活用したり、様々な情報（新聞やTなどで）を収集する。
（4）ノートに授業内容をまとめ、配布されるプリント類を添付して、日本史ノートを作成する。
（5）文化史に関するプリントを、教科書・資料集を活用して完成させる。

評価方法

○ 評価は、定期考査を7割～8割程度、小テスト、課題、授業態度（興味・関心、意欲、知識、授業姿勢）を2割～3割程度の割合で総合的に行う。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
日本史B	原始・古代	／	■	■	■	■	■						／	／	／													／	／			／	／	／
	中世	／						■	■	■	■	■	／	／	／													／	／			／	／	／
	近世	／											／	／	／	■	■	■	■	■								／	／			／	／	／
	近代	／											／	／	／						■	■	■	■	■			／	／			／	／	／
	近現代	／											／	／	／											■	■	／	／	■	■	／	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-10	日本史B	3	P	4	選択

何を学ぶか

（1）原始古代から現代までの日本の歴史を学ぶ。
（2）日本文化の特色や伝統への理解を深める。
（3）複雑化した国際社会の中で生きる日本の方向性について考察する。

学習目標

○ 原始古代からの日本史展開を世界史的な視野に立って考察し、自国の歴史や文化・伝統への認識と誇りを深めるとともに、歴史的思考力を養い、国民としての自覚を持って複雑化した国際社会の中で生きる資質を培う。

学習方法

（1）世界史や地理、政治経済などの地歴公民科の小教科との連携を図る。
（2）国際関係を重視し、広い視野から多面的・多角的に歴史的事象を総合的に考察する。
（3）資料集を活用したり、様々な情報（新聞やTなどで）を収集する。
（4）ノートに授業内容をまとめ、配布されるプリント類を添付して、日本史ノートを作成する。
（5）文化史に関するプリントを、教科書・資料集を活用して完成させる。

評価方法

○ 評価は、定期考査を7割～8割程度、小テスト、課題、授業態度（興味・関心、意欲、知識、授業姿勢）を2割～3割程度の割合で総合的に行う。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
日本史B	原始・古代	／	■	■	■	■	■						／	／	／													／	／			／	／	／
	中世	／						■	■	■	■	■	／	／	／													／	／			／	／	／
	近世	／											／	／	／	■	■	■	■	■								／	／			／	／	／
	近代	／											／	／	／						■	■	■	■	■			／	／			／	／	／
	近現代	／											／	／	／											■	■	／	／	■	■	／	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-11	地理A	3	S理・P	2	必修

何を学ぶか

① 自然環境，資源，産業，都市・村落，生活文化等の事象を通して現代世界の特色を主題的な方法を基に考察する。
② 現代世界を地域（市町村規模，国家規模、州・大陸規模）のスケールを踏まえながら地誌的に考察する。地誌的な内容を中心に学習して、結びつきを理解する。
③ 現代世界の諸課題の現状と背景を理解し、地球的問題群の環境問題・人口問題などを将来へ大きな課題としてとらえられるように学習する。
④ 世界を理解するために、世界の基礎的な知識を再確認する。

学習目標

○ 現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景，日常生活との関連を踏まえて考察し，現代世界の地理的認識を養うとともに，地理的な見方や考え方を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

学習方法

○ 教科書・副教材を使用して、写真などの教材を参考にして、講義型の授業を中心に行うが、作図などの作業を随時実施する。授業時には、教科書・副教材・地図帳・ノート・色鉛筆を必ず用意することが必要となる。

評価方法

○ 評価は、定期考査を7割～8割程度、小テスト、課題、授業態度（興味・関心、意欲、知識、授業姿勢）を2割～3割程度の割合で総合的に行う。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
地理A	地球儀や地図でみる現代社会	／	■	■	■								／	／	／													／	／		
	生活を取りまく地理的環境	／			■	■	■	■	■				／	／	／													／	／		
	アジアの生活・文化と環境	／							■	■	■		／	／	／													／	／		
	イスラーム圏の生活・文化と環境	／									■	■	／	／	／	■												／	／		
	中南アフリカの生活・文化と環境	／											／	／	／		■	■										／	／		
	ヨーロッパの生活・文化と環境	／											／	／	／			■	■	■								／	／		
	ロシアと周辺の生活・文化と環境	／											／	／	／					■								／	／		
	北アメリカの生活・文化と環境	／											／	／	／					■	■	■						／	／		
	中・南アメリカの生活・文化と環境	／											／	／	／							■						／	／		
	オセアニアの生活・文化と環境	／											／	／	／								■					／	／		
	地球的課題・人口問題	／											／	／	／								■	■				／	／		
	地球的課題・食糧問題	／											／	／	／										■	■		／	／		
	地球的課題・環境問題	／											／	／	／											■	■	／	／		
	地球的課題への国際協力	／											／	／	／													／	／	■	■

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-12	地理B	3	A理	4	必修

何を学ぶか

1. 自然環境，資源，産業，都市・村落，生活文化等の事象を通して現代世界の特色を系統地理的に考察する。
2. 現代世界を地域（市町村規模、国家規模、州・大陸規模）のスケールを踏まえながら地誌的に考察する。
3. 現代世界の諸課題（国家間、日本の近隣諸国、環境・エネルギー問題、人口・食料問題、居住・都市問題、民族・領土問題）の現状と背景を理解し、解決策を探る。
4. 地理という科目が世界を捉えるうえで重要であることを理解するとともに、世界の諸問題に対して考え、自分の意見を言える力を身に付ける。

学習目標

○ 現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

学習方法

○ 教科書・副教材を使用して、写真などの教材を参考にして、講義による授業を行うが、随時、作図などの作業を導入する。授業時には、教科書・副教材・地図帳・ノート・色鉛筆を必ず用意することが必要である。
○ 大学入試科目への使用も考慮し、大学入学共通テストに対応する問題などを解いていく。

評価方法

○ 評価は、定期考査を6割～7割程度、小テスト、課題、授業態度（興味・関心、意欲、知識、授業姿勢）を3割～4割程度の割合で総合的に行う。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
地理B	地図と地理的技能	／	■	■	■								／	／	／													／	／		
	世界の地形	／			■	■	■	■					／	／	／													／	／		
	世界の気候	／						■	■	■	■		／	／	／													／	／		
	日本の自然	／									■	■	／	／	／													／	／		
	資源と産業	／											／	／	／	■	■	■	■									／	／		
	人口、村落・都市	／											／	／	／				■	■								／	／		
	生活文化、民族・宗教	／											／	／	／						■	■						／	／		
	現代世界の地誌的考察	／											／	／	／								■	■	■	■	■	／	／	■	■

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-13	世界史演習	3	S文・A文	3	選択

何を学ぶか

・近代から現代までの世界の歴史を中心に学ぶことを通じて、現在の社会や自らの存在を歴史的な視点から捉えることの大切さも学んでいきます。

学習目標

1　世界が一体化した近・現代の歴史を学習し、現在の私たちの社会がどのような経過のなかで成立したかを理解することを目標とします。
2　現代の人類が直面する諸課題を歴史的にとらえられるようにし、その解決方法を主体的に考えられるようになることを目標とします。

学習方法

1　歴史の流れを、原因・事象・結果の因果関係で捉えていきます。
2　授業を軸に、家庭での復習を合わせて知識の定着を図ります。
3　地図や図を用いて縦と横のつながりを把握する授業を行います。
4　教科書の内容理解を基本としながら、視覚資料を用い具体的イメージをもちながら学習していきます。
5　進学希望者には放課後の進学補習、長期休業中の講習などを行います。
6　大学受験に対応する力をつけるため、大学入学共通テストや大学入試の問題演習を行います。

評価方法

○ 評価は、定期考査を7割～8割程度、小テスト、課題、授業態度（興味・関心、意欲、知識、授業姿勢）を2割～3割程度の割合で総合的に行う。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
世界史演習	近世ヨーロッパ	／	■	■									／	／	／													／	／			／	／	／
	アジア諸地域の帝国	／			■	■							／	／	／													／	／			／	／	／
	市民革命	／					■	■					／	／	／													／	／			／	／	／
	近代の国民国家	／							■	■			／	／	／													／	／			／	／	／
	帝国主義	／									■	■	／	／	／	■	■	■										／	／			／	／	／
	第一次世界大戦	／											／	／	／				■	■	■							／	／			／	／	／
	戦間期の世界	／											／	／	／							■	■					／	／			／	／	／
	第二次世界大戦	／											／	／	／									■	■	■		／	／			／	／	／
	大戦後の世界	／											／	／	／												■	／	／	■	■	／	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-14	日本史演習	3	S文・A文	3	選択

何を学ぶか

（1）原始古代から現代までの日本の歴史のなかで、特に江戸幕末から明治・大正・昭和の近現代史を中心に学習する。
（2）日本文化の特色や伝統への理解を深める。
（3）センター試験を中心とした入試対策として問題演習を実施する。

学習目標

○原始古代から現代までの日本史展開を世界史的な視野に立って考察し、自国の歴史や文化・伝統への認識と誇りを深めるとともに、歴史的思考力を養い、国民としての自覚を持って複雑化した国際社会の中で生きる資質を培い、大学入試突破の基礎力を養成する。

学習方法

（1）国際関係を重視し、広い視野から多面的・多角的に歴史的事象を総合的に考察する。
（2）資料集や新聞やTV、DVDなどを活用し様々な情報を収集する。
（3）配布されるプリント類を綴じて、日本史ノートを作成する。
（4）課題となる文化関係プリントを教科書、資料集を活用して完成させる。
（5）過去のセンター入試問題などを中心に実践問題演習を進める。

評価方法

○ 評価は、定期考査を7割～8割程度、小テスト、課題、授業態度（興味・関心、意欲、知識、授業姿勢）を2割～3割程度の割合で総合的に行う。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
日本史演習	江戸幕末	／	■	■	■	■							／	／	／													／	／			／	／	／
	明治	／					■	■	■	■	■		／	／	／													／	／			／	／	／
	大正・昭和	／										■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■						／	／			／	／	／
	現代社会	／											／	／	／								■	■	■	■	■	／	／	■	■	／	／	／
	問題演習	／											／	／	／		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	／	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-15	政治・経済	3	S文	3	必修

何を学ぶか

○ 本校公民科では、1年生の「現代社会」と3年生の「政治・経済」を有機的に関連づけてとらえ、同じ学習事項の重複をなるべく避けようとしています。そのために、
・1年生の「現代社会」では、おもに法律・政治・社会問題領域を、
・3年生の「政治・経済」ではおもに経済と国際社会関係の基礎的な事項の学習を行います。

学習目標

1. 民主主義や資本主義経済の基礎的な原理を理論的・体系的に理解する。
2. 現代の政治，経済，国際関係などについて客観的に理解する。
3. 1、2の理解を踏まえ、またテレビのニュースや新聞記事に触れる機会を持つことにより、現代の諸課題について、多面的・多角的かつ主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民としての能力・態度を育てる。
　学習した内容から現代の政治・経済の課題等を考察できるようになることで、学習に対する意欲を向上させる。

学習方法

授業は
（1）原則として教科書に沿って進める。
（2）資料・ビデオ等の活用。
（3）点検をするので必ずノートをとる。
（4）小テストを行い、知識の定着を図る。
（5）1日に1回はテレビのニュースや新聞記事に目を通すこと。
（6）授業に必要なものは絶対に忘れない。教科書、ノートなど。

評価方法

○ 評価は、定期考査を7割～8割程度、小テスト、課題、授業態度（興味・関心、意欲、知識、授業姿勢）を2割～3割程度の割合で総合的に行う。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
政治・経済	経済活動の意義と経済体制	／	■	■	■								／	／	／													／	／		
	現代経済のしくみ	／				■	■	■	■				／	／	／													／	／		
	日本経済と福祉の向上	／							■	■	■	■	／	／	／													／	／		
	国際経済の動向	／											／	／	／	■	■	■	■									／	／		
	国際経済の課題と国際協力	／											／	／	／				■	■	■	■						／	／		
	現代日本の諸課題	／											／	／	／							■	■	■	■			／	／		
	国際社会の諸課題	／											／	／	／										■	■	■	／	／	■	■

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-16	政治・経済	3	A文	4	必修

何を学ぶか

○ 本校公民科では、1年生の「現代社会」と3年生の「政治・経済」を有機的に関連づけてとらえ、同じ学習事項の重複をなるべく避けようとしています。そのために、
・1年生の「現代社会」では、おもに法律・政治・社会問題領域を、
・3年生の「政治・経済」ではおもに経済と国際社会関係の基礎的な事項の学習を行います。

学習目標

1. 民主主義や資本主義経済の基礎的な原理を理論的・体系的に理解する。
2. 現代の政治，経済，国際関係などについて客観的に理解する。
3. 1、2の理解を踏まえ、またテレビのニュースや新聞記事に触れる機会を持つことにより、現代の諸課題について、多面的・多角的かつ主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民としての能力・態度を育てる。
　学習した内容から現代の政治・経済の課題等を考察できるようになることで、学習に対する意欲を向上させる。

学習方法

授業は
（1）原則として教科書に沿って進める。
（2）資料・ビデオ等の活用。
（3）点検をするので必ずノートをとる。
（4）小テストを行い、知識の定着を図る。
（5）1日に1回はテレビのニュースや新聞記事に目を通すこと。
（6）授業に必要なものは絶対に忘れない。教科書、ノートなど。

評価方法

○ 評価は、定期考査を7割～8割程度、小テスト、課題、授業態度（興味・関心、意欲、知識、授業姿勢）を2割～3割程度の割合で総合的に行う。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
政治・経済	経済活動の意義と経済体制	／	■	■	■								／	／	／													／	／		
	現代経済のしくみ	／				■	■	■	■				／	／	／													／	／		
	日本経済と福祉の向上	／							■	■	■	■	／	／	／													／	／		
	国際経済の動向	／											／	／	／	■	■	■	■									／	／		
	国際経済の課題と国際協力	／											／	／	／				■	■	■	■						／	／		
	現代日本の諸課題	／											／	／	／							■	■	■	■			／	／		
	国際社会の諸課題	／											／	／	／										■	■	■	／	／	■	■
	問題演習	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-17	数学Ⅲ	3	S理	6	必修

何を学ぶか

・高校における数学学習の締めくくりとして、またより高度な数学への入り口として、微分学・積分学の基礎を学びます。
・複素数平面では、複素数に関する知識を深め、2次曲線では、放物線・楕円・双曲線について、関数では、分数関数・無理関数について、極限では、数学Bで学習した数列の極限をさらに深く学習するとともに、関数の極限も学習し、次の微分・積分への基礎的概念を学びます。
・微分法・積分法では、数学Ⅱで学習した3次までの関数に加え、高校数学で学習したすべての関数について微分・積分の計算を学びます。そして、変曲点などの学習でグラフの精密な形についても理解を深め、近似式・体積も学習します。
・数学Ⅲの内容が終了した後は、共通テスト・私大推薦一般入試問題などの問題演習を行います。

学習目標

・近代科学技術の発展を可能にした数学の手法を習得すると同時に、既習の分野への応用を通して、その強力さを体験します。
・科学技術史についても適宜教材化することとし、とりわけ物理との関係を認識します。
・解答の推敲指導を通して、知識を表現することの重要性についても注意を向けます。
・理系大学への進学を目指して、自らの実力を養成する姿勢を身につけます。

学習方法

・予習は、教科書に目を通し、例題の解法についての理解に努めます。
・復習は、習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。理解できないところは、担当の先生に質問してください。
・長期休業中は教科書や傍用問題集で復習した後、参考書や入試問題集で高度な問題も解けるようにしてください。
・進学に向けた取り組み（補習・模試等）に、積極的に参加してもらうことで実践力を高めます。

評価方法

・定期テスト、課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度、課題学習等の提出状況、授業中の取り組み状況を中心に観点別に評価します。
・評価の割合
「知識・技能」50%、「思考・判断・表現」30%、「主体的に学習に取り組む態度」20%

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
数学Ⅲ	式と曲線・関数	■	■										／	／	／													／	／			／	／	／
	複素数平面			■	■								／	／	／													／	／			／	／	／
	極限					■	■	■					／	／	／													／	／			／	／	／
	微分法								■	■	■		／	／	／													／	／			／	／	／
	微分法の応用											■	／	／	／	■	■											／	／			／	／	／
	積分法とその応用												／	／	／			■	■									／	／			／	／	／
数学Ⅰ・A・Ⅱ・B	入試問題演習												／	／	／					■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	／	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-18	数学Ⅲ	3	A理	6	必修

何を学ぶか

・高校における数学学習の締めくくりとして、またより高度な数学への入り口として、微分学・積分学の基礎を学びます。
・複素数平面では、複素数に関する知識を深め、2次曲線では、放物線・楕円・双曲線について、関数では、分数関数・無理関数について、極限では、数学Bで学習した数列の極限をさらに深く学習するとともに、関数の極限も学習し、次の微分・積分への基礎的概念を学びます。
・微分法・積分法では、数学Ⅱで学習した3次までの関数に加え、高校数学で学習したすべての関数について微分・積分の計算を学びます。そして、変曲点などの学習でグラフの精密な形についても理解を深め、近似式・体積も学習します。
・数学Ⅲの内容が終了した後は、共通テスト・私大推薦一般入試問題などの問題演習を行います。

学習目標

・近代科学技術の発展を可能にした数学の手法を習得すると同時に、既習の分野への応用を通して、その強力さを体験します。
・科学技術史についても適宜教材化することとし、とりわけ物理との関係を認識します。
・解答の推敲指導を通して、知識を表現することの重要性についても注意を向けます。
・理系大学への進学を目指して、自らの実力を養成する姿勢を身につけます。

学習方法

・予習は、教科書に目を通し、例題の解法についての理解に努めます。
・復習は、習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。理解できないところは、担当の先生に質問してください。
・長期休業中は教科書や傍用問題集で復習した後、参考書や入試問題集で高度な問題も解けるようにしてください。
・進学に向けた取り組み（補習・模試等）に、積極的に参加してもらうことで実践力を高めます。

評価方法

・定期テスト、課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度、課題学習等の提出状況、授業中の取り組み状況を中心に観点別に評価します。
・評価の割合
「知識・技能」40%、「思考・判断・表現」40%、「主体的に学習に取り組む態度」20%

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
数学Ⅲ	式と曲線・関数	■	■																															
	複素数平面			■	■																													
	極限					■	■	■																										
	微分法								■	■	■																							
	微分法の応用											■				■	■																	
	積分法とその応用																	■	■															
数学Ⅰ・A・Ⅱ・B	入試問題演習																			■	■	■	■	■	■	■	■			■	■			

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-19	数学Ⅱ	3	P	4	選択

何を学ぶか

・数学Ⅱは式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分と積分を学びます。
・定理や公式を証明し、それらを使って具体的な問題に応用していきます。

学習目標

・基礎的な知識の習得と問題を解く力の習熟を目指します。
・事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばし、それらを活用する態度を育成します。
・数学的な考え方や論理的思考力を養います。

学習方法

・予習は、教科書に目を通し、例題の解法についての理解に努めます。
・復習は、習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。理解できないところは、担当の先生に質問してください。問題集の類題を解くと、さらに理解が深まります。
・毎日続けることが大切です。

評価方法

・定期テスト、課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度、課題学習等の提出状況、授業中の取り組み状況を中心に観点別に評価します。
・評価の割合
「知識・技能」50%、「思考・判断・表現」30%、「主体的に学習に取り組む態度」20%

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
数Ⅱ	方程式・式と証明	／	■										／	／	／													／	／			／	／	／
	図形と方程式	／		■	■	■	■	■					／	／	／													／	／			／	／	／
	三角関数	／							■	■	■	■	／	／	／	■	■	■										／	／			／	／	／
	指数・対数関数	／											／	／	／				■	■	■	■	■	■				／	／			／	／	／
	微分と積分	／											／	／	／										■	■	■	／	／	■	■	／	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-20	数学演習	3	S文	2	選択

何を学ぶか

・数学演習は、1・2年で履修した数学ＩＡと数学ⅡＢの演習を行う。実践方式で、問題演習に取り組み、その解説を行います。

学習目標

・基礎的な知識の習得と問題を解く力の習熟を目指します。
・事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばし、それらを活用する態度を育成します。
・数学的な考え方や論理的思考力を養います。

学習方法

・予習・・・配布教材に目を通し、問題の解法について理解に努めてください。
・復習・・・今日習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。理解できないところは、担当の先生に質問してください。問題集等で、類題を別のノートに解いて、さらに理解を深めます。

評価方法

・定期テスト、課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度、課題学習等の提出状況、授業中の取り組み状況を中心に観点別に評価します。
・評価の割合
「知識・技能」50%、「思考・判断・表現」30%、「主体的に学習に取り組む態度」20%

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
数学演習	演習	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	／	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-21	数学演習	3	A文	3	選択

何を学ぶか

・数学演習は、1・2年で履修した数学ⅠAと数学ⅡBの演習を行う。実践方式で、問題演習に取り組み、その解説を行います。

学習目標

・基礎的な知識の習得と問題を解く力の習熟を目指します。
・事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばし、それらを活用する態度を育成します。
・数学的な考え方や論理的思考力を養います。

学習方法

・予習・・・配布教材に目を通し、問題の解法について理解に努めてください。
・復習・・・今日習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。理解できないところは、担当の先生に質問してください。問題集等で、類題を別のノートに解いて、さらに理解を深めます。
・毎日、予習・復習を行うことが大切です。
・進学に向けた取り組み（補習・模試等）に、積極的に参加してもらうことで実践力を高めます。

評価方法

・定期テスト、課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度、課題学習等の提出状況、授業中の取り組み状況を中心に観点別に評価します。
・評価の割合
「知識・技能」40%、「思考・判断・表現」40%、「主体的に学習に取り組む態度」20%

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
数学演習	演習	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	／	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-22	物理	3	S理・A理	4	選択

何を学ぶか

○自然界にある現象のうち、物理的な現象について「物理基礎」よりもさらに発展的に扱います。
力学・熱力学・波動・電磁気・原子の各領域の諸現象について、その法則性を深く学びます。

学習目標

○自然界で起こる物理的な現象の中に存在する法則性・規則性を見いだし、諸現象をその法則性・規則性で説明できることを目指します。

学習方法

○力学・熱力学・波動・電磁気・原子領域ごとに、それぞれの領域に存在する規則性・法則性を講義や問題や問題演習、実験・実習を通して理解していきます。

評価方法

・定期考査……毎回の考査において、授業内容を踏まえた基礎・応用問題を出題し、そのうち30点以上の得点を合格点とする。
・提出物　他……適宜提出を求め、取り組みの姿勢や内容に応じて採点する。
・年度末において、定期考査と提出物他の得点を総合し、単位認定を決定する。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
物理	力学	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■		／	／	／													／	／			／	／	／
	熱力学	／									■	■	／	／	／													／	／			／	／	／
	波動	／											／	／	／	■	■	■	■	■								／	／			／	／	／
	電磁気	／											／	／	／						■	■	■	■	■	■		／	／			／	／	／
	原子分子	／											／	／	／												■	／	／	■	■	／	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-23	化学	3	S理・A理	4	必修

何を学ぶか

〇『化学基礎』で学んだ内容をもとに、化学の本質に迫って行く。
・前半では、気体・溶液・反応速度・化学平衡を、後半では無機物質の性質の各論・有機化合物を学習する。
・また、それぞれの物質がその特徴をいかして私たちの日常生活の中で利用されていることや、人間と化学の関わり方を考える。

学習目標

〇気体・希薄溶液の性質元素、化学反応の速さ・化学平衡の仕組みを通して物理化学の分野を、非金属元素の単体・化合物、金属元素の単体・化合物を典型元素と遷移元素に分けて学習し、性質・用途を理解する。その後、有機化合物の特徴を理解し分析法を身につける。
〇また、炭化水素・脂肪族化合物・天然有機化合物・高分子化合物の性質・用途を理解する。
〇以上を通して、化学的な見方、考え方を養うとともに、自然科学全体に対する興味・関心を引き起こすことを目標とし、２年次の『化学基礎』から引き継ぐ。

学習方法

〇基礎的な学習を大切にし、特に一つ一つの用語の定義や意味をしっかり理解できるように丁寧に学習する習慣を身につける。また、実験や画像を通して、五感を通して物質をとらえていくことを重視する。
〇化学基礎に比べて、数式の取り扱いが多くなるが、演習の時間も多く使いながら、問題を解くことで理論を実感できるようにする。あくまで、授業をしっかり聞いて、授業の中ですべてのことを解決していく集中力を期待している。
〇化学は実験からスタートする学問である。実験は積極的に行い、多くのことを実験から学んでほしい。実験レポートは丁寧に考察しながら書き上げるように取り組む。

評価方法

定期考査を中心に、実験レポートなども含めて知識・理解・興味・意欲等を総合的に判断する。
実験レポート等は1割程度とする

(5月)　(7月)　(10月)　(12月)　(1月)

〇は定期考査実施予定

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
化学	気体		■	■																														
	溶液				■	■																												
	化学反応の速さ						■	■																										
	化学平衡								■	■																								
	非金属元素										■	■																						
	典型金属元素															■	■																	
	遷移元素																	■	■															
	脂肪族炭化水素																			■	■													
	脂肪族化合物																					■	■											
	芳香族化合物																							■	■									
	天然有機化合物																									■	■							
	高分子化合物																													■	■			

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-24	生物	3	S理・A理	4	選択

何を学ぶか

〇生物基礎の内容を、さらに深く掘り下げて、次の事柄を学習する。
- 細胞、タンパク質、代謝（生体内での化学反応）等について
- 遺伝子とそのはたらきについて
- 有性生殖と発生について（動物を中心に）
- 動物の刺激受容と反応・行動、植物の環境に対する反応について
- 生物の集団（個体群、生物群集）のあり方、生物集団と環境の関係について
- 生物進化と系統について

学習目標

〇生物や生物現象に関する概念や原理・法則を理解し、生物学的にとらえる力を養う。
〇授業や実験を通して科学的に探究する態度や能力を深める。
〇身の回りの生物や生命現象に対する関心や探究心を高める。
〇さらに生物や生命現象と人間の関わりについての理解を深める。

学習方法

〇授業前に必ず教科書に目を通しておく。その際、専門用語やわからない語句を調べておくこと。
〇授業中は先生の説明をよく聞き、分からない所はその時間内に解決すること。
〇家庭学習において、ノートや問題集を用いて、より深く理解するように努力すること。
〇実習・実験には興味関心を持ち積極的に参加し、その中で協力的態度を身につける。
〇また、実験レポート等、提出物を丁寧に作成すること。

評価方法

・定期考査は年間5回実施する。授業内容の確認として小テストを実施する場合もある。
・年間7回程度の実験を行い、レポートを作成する。
・考査点と平常点（1～2割）で評価する。
　＊平常点は、提出物の状況・小テスト・授業態度等により知識・理解・興味・意欲の観点から評価する。

〇は定期考査実施予定

5月　7月　10月　12月　1月

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
生物	生命現象と物質	／	■	■	■	■	■						／	／	／													／	／			／	／	／
	遺伝子のはたらき	／						■	■	■	■	■	／	／	／													／	／			／	／	／
	生殖と発生	／											／	／	／	■	■	■	■	■								／	／			／	／	／
	生物の環境応答	／											／	／	／						■	■	■	■					／	／			／	／	／
	生態と環境	／											／	／	／										■	■	■	／	／			／	／	／
	生物進化と系統	／											／	／	／													／	／	■	■	／	／	／

番号	科目名	学年	コース・類	単位数	備考
3-25	化学基礎	3	P	3	必修

何を学ぶか

〇物質の構造・性質や反応などから自然科学の基本的な知識・概念や原理・法則を学ぶ。また、学んだ知識などを生かして物質の利用法や社会での活用の意味などを学ぶ。

学習目標

〇化学的な事物・現象について、観察・実験を行う。
〇自然に対する関心や探究心を高める。
〇化学的に探究する態度や能力を深める。
〇基本的な概念や原理・法則を理解し、自然を化学的にとらえられるようにする。
〇エネルギーと物質の成り立ちについての理解を深める。
〇科学技術や自然と人間の関わりについての理解を深める。

学習方法

〇教室授業とともに、実験を通して物質の性質や化学変化の理解を深める。
〇身の回りの自然に興味・関心を持ちながら学習する。
〇問題演習を通じて計算法・理論を身につける。

評価方法

定期考査を中心に、実験レポートなども含めて知識・理解・興味・意欲等を総合的に判断する。
実験レポート等は1割程度とする

5月　7月　10月　12月　1月

〇は定期考査実施予定

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
化学基礎	化学と人間生活		■																															
	物質の探求			■	■	■	■																											
	物質の構成粒子							■	■	■																								
	物質と化学結合										■	■				■	■	■																
	物質量と化学変化																		■	■	■	■												
	酸と塩基																						■	■	■	■								
	酸化と還元																										■			■	■			

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-26	地学基礎	3	S文・A文	2	必修

何を学ぶか

○地球とそれをとりまく宇宙のようすを知り、これらがどのように誕生し、どのように遷移して現在に至ったのか、またこれらのことがどのようにして明らかにされてきたかを学びます。
○内容は
「固体地球とその変動」、「移り変わる地球」、「大気と海洋」、「宇宙の構成」、「自然との共生」。

学習目標

○一つは惑星としての地球の特徴および地球表層や内部に見られる地学的事象を、地球表層や内部を相互に関連させ、地球の歴史の経過の中でとらえることです。
○もう一つは地球の大気圏及び水圏での現象が太陽放射エネルギーを原動力としていることと、太陽や恒星の活動を通して宇宙の構造や広がりを理解することです。

学習方法

○教科書については、本文を熟読することはもちろんのこと、図表・グラフ・写真などについても丁寧にすみずみまで目を通し、地学の基本的な概念の形成を図ります。
○実習の時間については、各単元の学習活動と関連させながら、図表の読みとりやグラフ等のデータ処理をして考察をします。
○また、実験観察や自然観察を通して、学習目標と関連させながら、深く学習していきます。

評価方法

○定期考査については、1・2学期に中間・期末考査と3学期に学年末考査を実施します。
○実習や実験観察などに関する提出物は、創意工夫されているかに着目します。
○これらを中心に知識・理解・興味・意欲の到達度の度合いを判断し評価します。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
地学基礎	地球の構成と運動	／	■	■	■	■	■						／	／	／													／	／			／	／	／
	地球の変遷	／						■	■	■	■		／	／	／													／	／			／	／	／
	大気と海洋	／										■	／	／	／	■	■	■	■	■								／	／			／	／	／
	太陽系と宇宙	／											／	／	／						■	■	■	■	■	■		／	／			／	／	／
	地球の環境	／											／	／	／												■	／	／	■	■	／	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-27	生物基礎演習	3	A文	3	選択

何を学ぶか

〇生物基礎の知識を中心に実験や演習を行い、基本的な概念や原理・法則をより深く理解する。
〇生物関連の情報を、リアルタイムにニュースや新聞などから取り入れる意識をつける。
〇大学入試を視野に入れた入試対策として、問題演習も取り入れる。

学習目標

〇授業や実験を通して科学的に探究する態度や能力を深めるとともに、生物や生物現象に関する概念や原理・法則を理解し、物事を科学的・生物学的にとらえる力を養う。
〇また、同時に身の回りの生物や生命現象に対する関心や探究心を高める。
〇これらの知識・態度の育成を踏まえ、大学入試に必要な学力を獲得する。

学習方法

〇講義形式の授業を中心に行い、問題集を用いて既習事項の復習・演習も実施していく。
〇生物関連のニュースも随時扱うため、普段からニュースや新聞などに気を配っておく。
〇過去のセンター試験や大学入学共通テストを中心に、随時実践問題の演習を行う。
〇希望者に対しては、放課後・夏期・冬期などの補習を実施する。

評価方法

・年間5回の定期考査を実施する。小テストを実施することもある。
・考査点と平常点（1割程度）で評価する。
＊平常点は、提出物の状況・小テスト・授業態度等より、知識・理解・興味・意欲の観点から評価する。

〇は定期考査実施予定

5月　7月　10月　12月　1月

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
生物演習	生物の特徴	／	■	■	■	■	■						／	／	／													／	／			／	／	／
	遺伝子のはたらき	／						■	■	■	■	■	／	／	／													／	／			／	／	／
	体内環境の維持	／											／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■					／	／			／	／	／
	多様性と生態系	／											／	／	／									■	■	■	■	／	／	■	■	／	／	／
	問題演習	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	／	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-28	体育	3	S・A	2	必修

何を学ぶか

① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
② 生涯スポーツの観点から、計画的に運動を実践できる能力を養う。
③ 科学的根拠に基づいた運動実践により自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

学習目標

・各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学習方法

・1学期始めに、オリエンテーションをし、集団行動・スポーツテスト、身体づくりを行う。
・その後、生涯スポーツの基礎を養う観点から、自ら考え活動していくことを目的として、種目選択のグループ学習での授業となる。活動は前期・中期・後期に分け、希望の多い決定種目でグループを作り、各グループで練習計画を作成し、リーダーを中心に授業を進める。グループで協力し、各種目の技術向上を目指す。

評価方法

・種目ごとに、①運動技能（40%）、②関心・意欲・態度（40%）、③思考・判断（10%）、④知識・理解（10%）の割合で総合的に評価する。
・評価内容は、①運動技能は個々のスキル点、②関心・意欲・態度は参加状況と活動意欲、③思考・判断はゲーム点と課題感想レポート、④知識・理解は練習計画の立案、グループ運営等の理解度である。欠席等をなくして1年・2年次以上に意欲的な授業への参加を求める。

授業予定

科目		単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月		
			上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
体育	男女	集団行動・スポーツテスト	／	■	■									／	／	／													／	／		
		体つくり運動	／			■								／	／	／	■												／	／		
		体育理論	／										■	／	／	／	■												／	／		
		剣道	／				●	●	●	●	●	●		／	／	／		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	／	／	●	●
		サッカー	／				●	●	●	●	●	●		／	／	／		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	／	／	●	●
		バスケットボール	／				●	●	●	●	●	●		／	／	／		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	／	／	●	●
		バレーボール	／				●	●	●	●	●	●		／	／	／		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	／	／	●	●
		バドミントン	／				●	●	●	●	●	●		／	／	／		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	／	／	●	●
		テニス	／				●	●	●	●	●	●		／	／	／		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	／	／	●	●
		卓球	／				●	●	●	●	●	●		／	／	／		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	／	／	●	●
		ソフトボール	／				●	●	●	●	●	●		／	／	／		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	／	／	●	●
		ダンス	／				●	●	●	●	●	●		／	／	／		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	／	／	●	●
		陸上競技	／				●	●	●	●	●	●		／	／	／		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	／	／	●	●

■は必修種目　　●は選択して実施する種目

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-29	体育	3	P	3	必修

何を学ぶか

① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
② 生涯スポーツの観点から、計画的に運動を実践できる能力を養う。
③ 科学的根拠に基づいた運動実践により自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

学習目標

・各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学習方法

・1学期始めにオリエンテーション、集団行動・スポーツテストを行い、1学期に1種目、2学期は3種目、3学期は球技を1種目実施する。
・各種目とも基本的な体力、実践的な技能の習得を目指し、より高度なゲームができるよう授業を計画、実践することを目標とする。

評価方法

・種目ごとに、①運動技能（40%）、②関心・意欲・態度（40%）、③思考・判断（10%）、④知識・理解（10%）の割合で総合的に評価する。
・評価内容は、①運動技能は個々のスキル点、②関心・意欲・態度は参加状況と活動意欲、③思考・判断はゲーム点と課題感想レポート、④知識・理解は練習計画の立案、グループ運営等の理解度である。欠席等をなくして1年・2年次以上に意欲的な授業への参加を求める。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
体育	集団行動・スポーツテスト	／	■	■									／	／	／													／	／		
	剣道	／			■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／													／	／		
	男：テニス・体育理論	／			■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／													／	／		
	女：バドミントン・体育理論	／			■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／													／	／		
	ゴルフ	／											／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／		
	男：バドミントン	／											／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／		
	女：ソフトボール	／											／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／		
	男：サッカー	／											／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■
	女：テニス	／											／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■
	長距離走	／											／	／	／													／	／	■	■

＊剣道は、3年続けて受けた授業の確認として夏休みに昇級審査を受ける。

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-30	スポーツⅠ・Ⅱ・Ⅲ	3	S文	2	選択

何を学ぶか

① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
② 生涯スポーツの観点から、計画的に運動を実践できる能力を養う。
③ 科学的根拠に基づいた運動実践により自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

学習目標

・各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学習方法

・1学期始めに、オリエンテーションをし、集団行動・トレーニングを行う。その後、生涯スポーツの基礎を養う観点から、自ら考え活動していくことを目的として、種目選択のグループ学習での授業となる。
・活動は前期・後期に分け、希望の多い決定種目でグループを作り、各グループで練習計画を作成し、リーダーを中心に授業を進める。
・グループで協力し、各種目の技術向上を目指し、生涯体育に繋げることを目標とする。

評価方法

・種目ごとに、①運動技能（40%）、②関心・意欲・態度（40%）、③思考・判断（10%）、④知識・理解（10%）の割合で総合的に評価する。
・評価内容は、①運動技能は個々のスキル点、②関心・意欲・態度は参加状況と活動意欲、③思考・判断はゲーム点と課題感想レポート、④知識・理解は練習計画の立案、グループ運営等の理解度である。欠席等をなくして1年・2年次以上に意欲的な授業への参加を求める。

授業予定

科目		単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月		
			上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
スポーツⅠ・Ⅱ・Ⅲ	男子	集団行動・トレーニング	／	■	■	■								／	／	／													／	／		
	女子		／	■	■	■								／	／	／													／	／		
	男子	前期選択	／				■	■	■	■	■	■	■	／	／	／													／	／		
	女子		／				■	■	■	■	■	■	■	／	／	／													／	／		
	男子	中期選択	／											／	／	／	■	■	■	■	■	■	■						／	／		
	女子		／											／	／	／	■	■	■	■	■	■	■						／	／		
	男子	後期選択	／											／	／	／								■	■	■	■	■	／	／	■	■
	女子		／											／	／	／								■	■	■	■	■	／	／	■	■

*種目は　・ネット型（テニス・バドミントン・バレーボール）　・ゴール型（サッカー・バスケットボール）
・ベースボール型（ソフトボール）

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-31	スポーツⅠ・Ⅱ・Ⅲ	3	P	4	必修

何を学ぶか

① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
② 生涯スポーツの観点から、計画的に運動を実践できる能力を養う。
③ 科学的根拠に基づいた運動実践により自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

学習目標

・各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学習方法

・スポーツ総合専攻1、2、3年生を専攻種目ごとの縦割り集団として、実戦的でレベルの高い専攻種目の授業を行なう。
・各自のさらなる競技力向上を目指し、研究・実験学習を行い、卒業論文作成及び校内発表会を行う。
・各自のテーマをみつけて、研究する。

評価方法

・種目ごとに、①運動技能（40%）、②関心・意欲・態度（40%）、③思考・判断（10%）、④知識・理解（10%）の割合で総合的に評価する。
・評価内容は、①運動技能は個々のスキル点、②関心・意欲・態度は参加状況と活動意欲、③思考・判断はゲーム点と課題感想レポート、④知識・理解は各種目ルール、技術理論等の理解度である。欠席等をなくして意欲的な授業への参加を求める。
・研究、アンケート作成、実験方法思案、実験等を毎時間、評価する。スポーツへの関心・意欲・態度ならびに知識理解において、総合的に判断し評価する。

授業予定

科目			単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月		
				上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
スポーツⅠⅡⅢ	体育理論	男子・女子	剣道（男女）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■
			バスケットボール（女子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■
			バレーボール（女子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■
			陸上競技（男女）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■
			硬式野球（男子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■
			サッカー（男子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■
			ソフトテニス（女子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■

※各自の専攻種目を基本にテーマを設定し、研究発表を行う。

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-32	音楽Ⅲ	3	S文・P	2	選択

何を学ぶか

・生涯にわたって音楽を愛好する心情を育てるとともに、そのために必要な最低限の知識、技能を学ぶ。

学習目標

・生涯にわたって音楽を愛好する心情を育て、そのために必要な最低限の知識、技能を身につける。

学習方法

・歌唱は教科書やそれ以外にも幅広い教材を用いて、独唱、斉唱、合唱をする。
・器楽はギターの基礎的な奏法を身につけ、鍵盤楽器や打楽器等を用いて合奏をする。
・鑑賞は映像や音源や実演を通して、芸術を幅広く理解し音楽のよさや美しさを味わう。

評価方法

・表現（歌唱・器楽）は「音楽や音楽文化についての理解を深め、主体的に学習に取り組もうとする（主体的に学習に取り組む態度）」「知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を身に付けている（思考・判断、表現 ）」「創造的な音楽表現をするために必要な知識・技能を身につけている（知識・技能）」の観点で評価する。〈授業中の演奏、実技テスト、提出物、筆記テスト〉
・鑑賞は「音楽や音楽文化について理解を深め、主体的に学習に取り組もうとする（主体的に学習に取り組む態度）」「芸術を幅広く理解し、そのよさや美しさを味わって聴いている（鑑賞の能力）」の観点で評価する。〈授業中の様子、提出物、筆記テスト〉

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
音楽Ⅲ	歌唱	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	／	／	／
	ギター、グループ合奏	／		■	■	■	■	■	■	■	■		／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	／	／	／
	鑑賞	／			■		■		■			■	／	／	／			■		■		■							／	／			／	／	／
	実技テスト	／								■	■		／	／	／										■	■		／	／			／	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-33	美術Ⅲ	3	S文・P	2	選択

何を学ぶか

・表現の基礎 〈デッサン・ドローイング〉
・発想を構成する力　〈アイデアスケッチ・エスキス・作品の原画〉
・絵画技法〈基本的技法・表現力〉
・デザイン〈デザインの基本・用途に応じた発想・構成力〉
・彫塑〈彫塑の基本技法・素材に応じた表現〉
➡ 絵画・デザイン・彫刻の分野の中から、各生徒が得意の分野を選択する。

学習目標

・素直な気持ちで、何を表現したいのか明確にする。〈独創性(オリジナリティー)を追求〉
・豊かで自由な表現力を養う。〈様々な表現技法を学び、新しいものに挑戦し、感性を豊かにする〉
・真摯に作品に取り組み、できる限り時間をかけて丁寧に仕上げる。〈表現力を深める〉
・基本的な表現技法をしっかり身につけ、生涯、趣味として生かせる技術を身につける。
・作品の表現と鑑賞を通して、美術への愛好心を養い、伝統文化への理解を深める。

学習方法

・表現基礎・リアルな表現 〈鉛筆の細密デッサン・作品の下絵や原画をドローイング〉
・発想を作品の原画として構成する。〈イメージを明確にする ➡資料収集 ➡アイデアスケッチ・エスキス〉
・絵画技法〈油彩、アクリル絵具の基本に様々な画材で表現してみる。テーマ設定して制作する。〉
・卒業制作〈絵画・版画・デザイン・彫塑・工芸分野から各自の興味関心特性に応じて課題を選択〉
・卒業制作展、合評会などあらゆる機会を通して鑑賞力、共感力、発進力を身につける。

評価方法

・すべての作品を完成させて、提出することが原則。
【関心・意欲・態度】主体的に表現や鑑賞に取り組めているか。
【芸術的な感受や表現の工夫】自ら主題を見つけ、感性を働かせ、多様な表現を工夫しているか。
【創造的な表現の技能】基本技法を身につけ、主題に応じた表現で、丁寧に仕上げられているか。
【鑑賞の能力】素直な気持ちで様々な作品に接したり、創作に生かしたりして、多様な文化への理解を深められたか。
・欠席、遅刻過多や授業態度についても、点数化はしないが評価をする上で考慮する。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
美術Ⅲ	表現基礎	／	■										／	／	／													／	／			／	／	／
	絵画分野（選択）	／		■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■											／	／			／	／	／
	全分野（選択）	／											／	／	／			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	／	／	／
	鑑　　賞	／	■									■	／	／	／			■	■									／	／		■	／	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-34	書道Ⅲ	3	S文・P	2	選択

何を学ぶか

・漢字（五体より選択）・大字仮名・漢字仮名交じりの書・表装（軸装・パネル）を学びます。

学習目標

・「書道Ⅰ」・「書道Ⅱ」で学んだ内容を発展させ、さまざまな形態で制作する中で、書の美との関わりを深め、創造する喜びを体感します。

学習方法

・仮名は大字仮名に取り組み、線質や潤渇の表現を学びます。
・漢字は数多くの古典より一点を選び臨書作品を制作し、大筆による一字創作にも取り組みます。
・漢字仮名交じりの書の制作ではこれまでに学習した内容をふまえてより高度な表現を試みます。
・作品はそれぞれ裏打ちし、軸装・パネルに仕立てて展示形態の多様性と視覚的効果を理解します。

評価方法

・主体的に表現や鑑賞の創作活動に取り組めているか（関心・意欲・態度）
・書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫しているか（書表現の構想と工夫）
・基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身につけているか（創造的な書表現の技能）
・書の伝統と文化を理解し、書のよさや美しさを創造的に味わっているか（鑑賞の能力）
以上の内容について、完成した作品の達成度とともに評価します。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
書道Ⅲ	仮名		■	■	■	■	■	■																										
	硬筆																																	
	漢字											■				■	■	■	■															
	表装										■									■	■	■					■							
	漢字仮名交じり																						■	■										
	創作								■	■															■	■				■	■			

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-35	コミュニケーション英語Ⅲ	3	S	4	必修

何を学ぶか

・短めの文章を読みながら、英文の内容を読み取るための基礎的なreading skillsを学ぶ。
・長い文章を読み、学んだreading skillsを活用して概要を理解するとともに、そこに使われている表現を覚え、使えるようにする。
・重要な英語構文を学習し、運用力を養う。

学習目標

・英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を一層伸ばし、社会生活において活用できるようにする。
・卒業時にCEFRのB1レベルの英語力取得を目指す。

学習方法

① 新出単語・熟語等を含む語彙の意味・用法を理解する。
② 本文を読んで、T or F, Q and A等の活動に取り組みながら内容を把握する。
③ 意味を踏まえた適切な音読の反復練習を通じて、言語材料の定着と音声面の強化を図る。
④ 英文中の文法事項を使った自由英作文等を通してSpeaking, Writingの力を伸ばす。
⑤ 副教材で、基礎的な英語構文の定着をはかる。

評価方法

授業中の小テストや提出物・出席状況・授業態度を成績の2割程度とし、定期考査の成績と合わせて最終の評価とする。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
コミュニケーション英語Ⅲ	Lesson 1		■	■	■																																
	Lesson 2				■	■	■																														
	Lesson 3						■	■	■																												
	Lesson 4								■	■	■																										
	Lesson 5											■				■	■	■																			
	Lesson 6																	■	■	■	■																
	Lesson 7																				■	■	■	■													
	Lesson 8																							■	■	■	■										
	Lesson 9																										■			■	■						

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-36	コミュニケーション英語Ⅲ	3	A	4	必修

何を学ぶか

・「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」の単語や文法事項を踏まえながら、まとまりのある文章を読んで、英文を正確に速く読み解く方法を学び、繰り返しトレーニングを行う。
・また、様々なタイプの文章に接し、必要な情報を得たり、概要や要点をまとめたりする力を養う。

学習目標

・英語を読んで、情報や書き手の意向などを素早く正確に理解する能力をさらに伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
・卒業時にCEFRのB1レベルの英語力取得を目指す。

学習方法

① 新出単語および熟語の意味、構文を授業内で理解する。
② ①を使って、初見の英文を読んで、T or F, Q and A等の問題を解きながら大まかな内容を把握する。
③ 英文の音読、英文中の文法事項を使っての自由英作文等でSpeaking, Writingの力を伸ばす。
④ 副教材を活用して、語彙力や文法力を高める。

評価方法

授業中の小テストや提出物・出席状況・授業態度を成績の2割程度とし、定期考査の成績と合わせて最終の評価とする。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
コミュニケーション英語Ⅲ	Lesson 1		■	■	■																																
	Lesson 2				■	■	■																														
	Lesson 3							■	■	■																											
	Lesson 4									■	■	■																									
	Lesson 5															■	■	■	■																		
	Lesson 6																		■	■	■																
	Lesson 7																				■	■	■														
	Lesson 8																						■	■	■												
	Lesson 9																								■	■	■										
	Lesson 10																										■			■	■						

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-37	コミュニケーション英語Ⅲ	3	P	5	必修

何を学ぶか

・短めの文章を読みながら、英文の内容を読み取るための基礎的なreading skillsを学ぶ。
・長い文章を読み、学んだreading skillsを活用して概要を理解するとともに、そこに使われている表現を覚え、使えるようにする。
・重要な英語構文を学習し、運用力を養う。

学習目標

・英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を一層伸ばし、社会生活において活用できるようにする。
・卒業時にCEFRのB1レベルの英語力取得を目指す。

学習方法

① 新出単語・熟語等を含む語彙の意味・用法を理解する。
② 本文を読んで、T or F, Q and A等の活動に取り組みながら内容を把握する。
③ 意味を踏まえた適切な音読の反復練習を通じて、言語材料の定着と音声面の強化を図る。
④ 英文中の文法事項を使った自由英作文等を通してSpeaking, Writingの力を伸ばす。
⑤ 副教材で、基礎的な英語構文の定着をはかる。

評価方法

授業中の小テストや提出物・出席状況・授業態度を成績の2割程度とし、定期考査の成績と合わせて最終の評価とする。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
コミュニケーション英語Ⅲ	Lesson 1	／	■	■	■								／	／	／														／	／			／	／	／	／	／	／
	Lesson 2	／			■	■	■						／	／	／														／	／			／	／	／	／	／	／
	Lesson 3	／					■	■	■				／	／	／														／	／			／	／	／	／	／	／
	Lesson 4	／							■	■	■		／	／	／														／	／			／	／	／	／	／	／
	Lesson 5	／										■	／	／	／	■	■	■											／	／			／	／	／	／	／	／
	Lesson 6	／											／	／	／			■	■	■	■								／	／			／	／	／	／	／	／
	Lesson 7	／											／	／	／						■	■	■	■					／	／			／	／	／	／	／	／
	Lesson 8	／											／	／	／									■	■	■	■		／	／			／	／	／	／	／	／
	Lesson 9	／											／	／	／												■	／	／	／	■	■	／	／	／	／	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-38	英語表現Ⅱ	3	S	2	必修

何を学ぶか

・問題の演習をすることによって2年時の英文法を定着させ、実際の会話や英作文に役立つ知識を学び、英語で身近な話題や自分の考えを表現できる技術を身につける。

学習目標

・比較的短く易しい英文を使って、2年生で学習した文法項目のポイントを整理し、文法の基礎的な力を構築する。
・また、問題演習をすることで情報や考えなどを、場面や目的に応じて英語で書く能力を更に伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
・卒業時にCEFRのB1レベルの英語力取得を目指す。

学習方法

① 予習を行い、練習問題を解いておく。
② 各レッスンの文法項目を理解し、例文を反復練習する。
③ やった問題を復習し、さらに理解を深める。
④ 学習した語句や表現･構文等を活用し、英語でまとまった文章を書く。

評価方法

・単元ごとに例文などの小テストを行い、その平均を2割とし、ライティング課題等の提出物、授業参加への意欲を1割として定期考査の点数と合わせて最終的に評価する。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
英語表現Ⅱ	Part 1　L.8	／	■	■	■	■	■						／	／	／														／	／			／	／	／	／	／	／
	構文UNIT5～UNIT6	／						■	■	■	■	■	／	／	／														／	／			／	／	／	／	／	／
	構文UNIT7～UNIT8	／											／	／	／	■	■	■	■	■	■								／	／			／	／	／	／	／	／
	構文UNIT9～UNIT11	／											／	／	／							■	■	■	■	■	■		／	／			／	／	／	／	／	／
	構文UNIT12	／											／	／	／														／	／	■	■	／	／	／	／	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-39	英語表現Ⅱ	3	A	2	必修

何を学ぶか

・問題の演習をすることによって2年時の英文法を定着させ、実際の会話や英作文に役立つ知識を学び、英語で身近な話題や自分の考えを表現できる技術を身につける。

学習目標

・比較的短く易しい英文を使って、2年生で学習した文法項目のポイントを整理し、文法の基礎的な力を構築する。
・また、問題演習をすることで情報や考えなどを、場面や目的に応じて英語で書く能力を更に伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
・卒業時にCEFRのB1レベルの英語力取得を目指す。

学習方法

① 必ず予習を行い、練習問題を解いておく。
② 各レッスンの文法項目を理解し、例文を反復練習する。
③ 演習問題を解き、さらに理解を深める。
④ 学習した語句や表現･構文等を活用し、英語でまとまった文章を書く。

評価方法

・単元ごと等で小テストを行い、その平均を2割とし、ライティング課題等の提出物、授業参加への意欲を1割として定期考査の点数と合わせて最終的に評価する。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
英語表現Ⅱ	Part 1　L.8	／	■	■	■	■	■						／	／	／														／	／			／	／	／	／	／	／
	構文UNIT5～UNIT6	／						■	■	■	■	■	／	／	／														／	／			／	／	／	／	／	／
	構文UNIT7～UNIT8	／											／	／	／	■	■	■	■	■	■								／	／			／	／	／	／	／	／
	構文UNIT9～UNIT11	／											／	／	／							■	■	■	■	■	■		／	／			／	／	／	／	／	／
	構文UNIT12	／											／	／	／														／	／	■	■	／	／	／	／	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-40	英語演習	3	A文	3	選択

何を学ぶか

・大学共通テスト、四年制大学受験レベルの問題に取り組み、論理的思考を養うとともに、英語を正しく読む力を身につける。

学習目標

・1、2年次に習得した英語力を土台とし、英文の読解力を高める。
・卒業時にCEFR　B1レベルの英語力取得を目指す。

学習方法

1　英文を読み、単語の意味や構文を学び、内容を理解する。
2　大意把握に有効な速読スキルを身につけるために速読テストを行う。

評価方法

・授業中に行う速読テストその他の小テストを1割、提出物や授業参加意欲を1割として、定期考査の点数と合わせて最終的に評価する。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
英語演習	Lesson 1,2,3	／	■	■	■	■	■						／	／	／													／	／			／	／	／	／	／	／
	Lesson 4,5,6	／						■	■	■	■	■	／	／	／													／	／			／	／	／	／	／	／
	Lesson 7,8	／										■	／	／	／	■	■											／	／			／	／	／	／	／	／
	Lesson 9,10	／											／	／	／			■	■	■	■							／	／			／	／	／	／	／	／
	Lesson 11,12,13	／											／	／	／							■	■	■	■	■		／	／			／	／	／	／	／	／
	Lesson 14,15	／											／	／	／												■	／	／	■	■	／	／	／	／	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-41	N&N（ﾆｭｰｽﾞ・ｱﾝﾄﾞ・ﾉﾍﾞﾙｽﾞ）	3	S文・P	2	選択

何を学ぶか

・現代的な話題性のあるテーマを扱ったテキストを使用する。さまざまなジャンルについての一般教養を身につけるとともに、長文読解の基礎固めを行う。

学習目標

・1、2年次に習得した英語力を土台とし、英文の読解力を高める。

学習方法

1　英文を読み、単語の意味や構文を調べ、内容を理解する。
2　内容の理解を深めるため、国や文化、記載されている問題などについて調べる。

評価方法

・英語4技能を習得することに力点を置き、「リーディング」「リスニング」「スピーキング」「ライティング」を取り入れた活動を行い、単元毎の小テストを8割とし、テーマに沿ったプロジェクト課題の提出、グループ学習での取組、授業参加への意欲を2割として評価する。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
N&N	Lesson 1	／	■	■									／	／	／													／	／			／	／	／	／	／	／
	Lesson 2	／		■	■								／	／	／													／	／			／	／	／	／	／	／
	Lesson 3	／				■	■						／	／	／													／	／			／	／	／	／	／	／
	Lesson 4	／						■	■				／	／	／													／	／			／	／	／	／	／	／
	Lesson 5	／							■	■			／	／	／													／	／			／	／	／	／	／	／
	Lesson 6	／								■	■		／	／	／													／	／			／	／	／	／	／	／
	Lesson 7	／										■	／	／	／	■	■											／	／			／	／	／	／	／	／
	Lesson 8	／											／	／	／	■	■	■										／	／			／	／	／	／	／	／
	Lesson 9	／											／	／	／				■	■								／	／			／	／	／	／	／	／
	Lesson 10	／											／	／	／					■	■							／	／			／	／	／	／	／	／
	Lesson 11	／											／	／	／							■	■					／	／			／	／	／	／	／	／
	Lesson 12	／											／	／	／								■	■				／	／			／	／	／	／	／	／
	Lesson 13	／											／	／	／										■	■		／	／			／	／	／	／	／	／
	Lesson 14	／											／	／	／											■	■	／	／			／	／	／	／	／	／
	Lesson 15	／											／	／	／													／	／	■	■	／	／	／	／	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-42	発達と保育	3	S文 ・P	2	選択

何を学ぶか

・2年生で学んだ「家庭基礎」の保育・教育分野の内容をより深く探求して行きます。
・保育に関わる実験・実習を通して、ヒトとしての発達の神秘や命の大切さにも触れます。

学習目標

・子どもに関わる今日的話題を取り上げ、保育・教育の現状や課題、方向性を見つめます。
・子どもの成長・発達に欠かせない栄養（食事）、生活習慣、遊び、児童文化財について、実験・実習を通して体験的に学んで行きましょう。
・保育士や幼稚園教諭等の保育・教育に関わる仕事や将来の子育てに役立つ基礎知識を習得しましょう。

学習方法

・授業の前に教科書を一読し、概要を掴んでおきましょう。
・毎時間、授業に集中し、プリントを記入すること。すぐに活用できるようファイルを整理しておきましょう。
・保育・教育する立場から、子どもの発達を促す教材の製作にも取り組み、保育実習に生かしましょう。
・日常的に新聞や本、テレビ、インターネット等から生活情報を入手し、疑問を持ったり、調べたり、自分の課題を見つけたり、周囲の人に提案したりしましょう。

評価方法

・小テスト、課題レポート、提出物（ファイル、実習作品等）、授業や実験・実習に対する取り組み等、意欲・関心（30%）、知識・理解（40%）、思考・判断・表現（10%）、技能（20%）の4つの観点で総合的に判断します。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
発達と保育	子どもの現状	／	■	■									／	／	／													／	／			／	／	／
	発育と発達	／			■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／													／	／			／	／	／
	子どもの生活	／											／	／	／	■	■	■	■	■	■							／	／			／	／	／
	保育者の役割	／											／	／	／							■	■	■				／	／			／	／	／
	家庭保育と集団保育	／											／	／	／										■	■	■	／	／			／	／	／
	児童福祉	／											／	／	／													／	／	■	■	／	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-43	フードデザイン	3	S文	2	選択

何を学ぶか

・食育の推進や食文化の創造、発展のために必要な食生活の知識や技術を習得します。
・栄養、食品、調理、食文化の多様性、歴史等について事例を見ながら学習します。
・調理・栄養に関して簡単な制作を行い、食生活に役立てます。

学習目標

食生活に関する栄養、食品、調理などの基礎を学び、食育の推進を図ると共に、食文化の成り立ち、日本と世界の食文化などに関する知識と技術を習得し、食文化の伝承と創造に寄与する能力と態度を身につけます。

学習方法

・授業の前に教科書を一読し、概要をつかんでおきましょう。
・毎時間、授業に集中し、プリントを記入すること。すぐに活用できるようファイルを整理しておきましょう。
・実験・実習に対して積極的に取り組み、調理技術、手腕の上達を目指して努力しましょう。
・コロナ禍での調理実習について、学校で学んだ食品の衛生・管理や献立の知識・技術を各自の家庭でも実践し、レポートにまとめましょう。
・日常的に新聞や本、テレビ、インターネット等から生活情報を入手し、疑問を持ったり、調べたり、自分の課題を見つけたり、周囲の人に提案したりしていきましょう。

評価方法

定期考査、課題レポート、提出物（プリントファイル、実習作品等）、授業や実験・実習に対する取り組み姿勢・態度について、「意欲・関心」「技能」50%、「知識・理解」「思考・判断・表現」50%、の4つの観点により判断します。コロナ禍では学校での調理実習の代わりに家庭での実践も評価します。

授業予定

▼は、定期考査の時期

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
											▼															▼								
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
フードデザイン	栄養と食品	／	■	■	■	■							／	／	／													／	／			／	／	／
	食生活の現状と課題	／				■	■	■					／	／	／													／	／			／	／	／
	食品の衛生・管理	／						■	■	■			／	／	／													／	／			／	／	／
	日本・世界の食文化	／							■	■	■	■	／	／	／													／	／			／	／	／
	食生活に関する制作実習	／											／	／	／	■	■	■	■	■	■							／	／			／	／	／
	茶の湯の歴史・文化	／											／	／	／							■	■	■	■			／	／			／	／	／
	調理の計画と献立	／											／	／	／											■	■	／	／	■	■	／	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-44	情報処理	3	S文・P	2	選択

何を学ぶか

・キャリア教育の一環として資格取得（ビジネス文書実務検定１級受験）をする。
・問題解決できる能力を伸ばす。また、情報倫理や道徳について学ぶ。
・社会人になったときの必要最低限のスキルを身につける。（ビジネス分野の内容・データベース活用も含む）

学習目標

・情報処理機器の活用について関心を持ち、自らすすんで課題に取り組み問題を解決する能力を身につける。
・資格取得のためにワード・エクセルに関する検定試験1級及び2級合格を目指す。
・コミュニケーション能力の育成。

学習方法

・情報発信のためのスキルを身に着ける。
・実習中心の授業のため欠席等でも課題は学校で行う。
・能力差については、本人の努力により克服できるのでその点を重視する。
・年間通じてタイピングの練習を自主的に行う。

評価方法

・課題・実技テスト（80%）を中心に知識・意欲・理解および出席・服装（20%）など総合的に判断する。
　詳細は、1・2学期の中間・期末にワープロ速度30%・文書（1級）（70%）の実技テストを実施する。
　3学期はエクセルの実技テストを実施する。
・実習科目なので、出席することが基本である。欠席時は必ず欠席届を提出すること。
・ビジネス実務検定試験受験（11月第3日曜）を必須とする。希望者には他の資格試験のサポートもある。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
情報処理	ビジネスと情報	／											／	／	／											■	■	／	／		■	／	／	／
	表計算ソフトの活用	／											／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	／	／	／
	ワープロ実技	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	／	／	／
	データベース活用	／											／	／	／											■	■	／	／	■		／	／	／
	プレゼン	／									■	■	／	／	／	■	■											／	／	■		／	／	／
	アルゴリズム	／											／	／	／											■	■	／	／	■		／	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-45	総合的な探究の時間 （体育理論）	3	P	1	必修

何を学ぶか

①自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
②生涯スポーツの観点から、運動をより効果的、効率的に実践できるための方法を学ぶ。
③科学的根拠に基づいた研究および発表により自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

学習目標

各種の運動の合理的な実践等の研究を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学習方法

・各自のさらなる競技力向上を目指し、研究・実験学習を行い、卒業論文作成及び校内発表会を行う。
各自のテーマをみつけて、研究する。
・代表者を決定し、体育系卒論発表会で学校代表として発表する。

評価方法

・研究、アンケート作成、実験方法思案、実験等を毎時間、評価する。
スポーツへ関心・意欲・態度、思考・判断、知識・理解等を総合的に判断し評価する。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
総合的な学習の時間（体育理論）	剣道（男女）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■
	バスケットボール（女子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■
	ソフトテニス（女子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■
	バレーボール（女子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■
	陸上競技（男女）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■
	硬式野球（男子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■
	サッカー（男子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■

※各自の専攻種目を基本にテーマを設定し、研究発表を行う。